

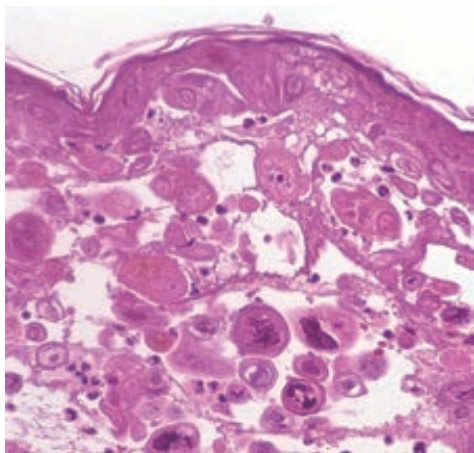


図 23.11 帯状疱疹の病理組織像
著明な balloon cell.

治療・予後

急性期の疼痛を緩和し、合併症や後遺症を残さないようにすることを目標とする。早期の抗ウイルス薬内服、重症例では点滴が原則となる。NSAIDs、ビタミン B₁₂ などが対症的に用いられる。健康人では一度罹患すると、低下した細胞性免疫が再構成されるため、基本的に終生免疫を獲得する。

PHN に対してはプレガバリン、抗うつ薬、ノイロトロピン[®]、ビタミン B₁₂ 内服、温熱療法や低反応レベルレーザー治療（low level laser therapy；LLLT）などの理学療法、神経ブロックなどが行われる。症状が強い例ではペインクリニックの対象となる。

近年、高齢者に対する帯状疱疹の発症予防として、水痘ワクチン接種の有効性が示されている。

B. 疣贅を主体とするもの ゆうぜい viral infections whose main symptom is verruca

1. 尋常性疣贅 verruca vulgaris, common wart ★

Essence

- ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）感染による。
- いわゆる“いぼ”。指趾や手背足底に好発し、自覚症状はほとんどない。
- 治療は液体窒素による冷凍凝固、グルタルアルデヒドなどの外用、炭酸ガスレーザー、電気凝固など。自然治癒もある。

病因

パポバウイルス科のヒト乳頭腫ウイルス（human papilloma virus；HPV）による。HPV-2 が主体であるが、その他に 27, 57 型などが発症しうる（表 23.1）。ウイルスは皮膚の微小外傷から侵入し、角化細胞に感染する。角化細胞の分化に伴ってウ

表 23.1 主な HPV の型と臨床症状の関係

図 23.12① 尋常性疣贅（verruca vulgaris）

ウイルスの複製が進み、顆粒層で成熟ウイルス粒子が完成する。そして、^{らくせつ}落屑とともにウイルス粒子が放出され、他の部位へ感染する。

症状

小児の手足背や指趾に好発する。潜伏期間は1～6か月で、小丘疹として初発し、増大するとともに疣状に隆起して数mm～数cm大まで至る（図23.12）。単発性のこともあるが多くは多発性であり、集簇融合して局面を形成することもある。自覚症状はほとんどない。ウイルスのタイプ、感染部位により、以下のような特徴的な臨床診断名が付されているものがあるが、基本的にはすべて尋常性疣贅である。

①足底疣贅（plantar wart）

足底に生じ、あまり隆起をきたさず角化性病変を形成する。^{べんち}胼胝（たこ）や^{けいがん}鶏眼（うおのめ）に類似するが、表面の角層を削ると点状出血をきたす点で鑑別可能（15章 p.296 参照）。融合して^{しきいし}敷石状になったものをモザイク疣贅（mosaic wart）という。

②ミルメシア（myrmecia）

手掌足底に生じるドーム状の小結節（図23.13）。deep palmoplantar wart と呼ばれ、HPV-1 感染による。噴火口状の外観を呈し、発赤や圧痛を伴うことが多い。足底疣贅の一種である。

③色素性疣贅（pigmented wart）

HPV-4、65 まれに HPV-60 による。尋常性疣贅の臨床像に黒色調の色素沈着を伴ったもので“くろいぼ”とも呼ばれる。

④点状疣贅（punctate wart）

HPV-63 による。白色点状角化病変が手掌足底に多発する。

⑤糸状疣贅（filiform wart）

顔面や頭部、頸部に生じる尋常性疣贅の一種で、直径数mmの細長く伸びた小突起（図23.14）。

病理所見

表皮では過角化や不全角化、顆粒層肥厚などを伴った乳頭状表皮肥厚を認める。また、顆粒層などに空胞細胞や粗大化したケラトヒアリン顆粒をみる。このような細胞の変化はHPV感染に特徴的であり、コイロサイトーシス（koilocytosis）と呼ばれる（図23.15）。

治療

主に、液体窒素による凍結療法を行う。手掌足底など凍結療法の効果が不十分になる部位では、外科的切除や炭酸ガスレー



図 23.12② 尋常性疣贅（verruca vulgaris）



図 23.13 ミルメシア（myrmecia）
ドーム状の小結節。圧痛を伴う。



図 23.14 糸状疣贅（filiform wart）

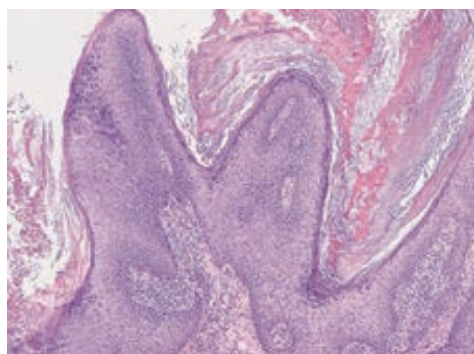


図 23.15 尋常性疣贅の病理組織像

図 23.16 扁平疣贅 (verruca plana)
下の写真では Köbner 現象を認める (矢印)。

ザーによる焼灼も行われる。ヨクイニン(ハトムギ種子抽出物)内服, 活性型ビタミン D₃ 外用, モノクロロ酢酸外用, グルタルアルデヒド外用, プレオマイシン局所注射なども行われる。経過中に炎症反応を生じて, 自然治癒することがある。

2. 扁平疣贅 verruca plana, plane wart, flat wart

同義語：青年性扁平疣贅 (verruca plana juvenilis)

症状・病因

ウイルス性疣贅の一種で, HPV-3, 10 が主体である。青年期女子の顔面(額, 頬)や手背に好発する。わずかに隆起した直径数 mm ~ 1 cm 大の扁平丘疹が多発し, ときに融合したり自家播種のため線状に配列する(図 23.16)。色調は正常皮膚色から淡紅色であり, 自覚症状はほとんどない。自然消退する際は掻痒や発赤などの炎症症状を生じ, 落屑を経て治癒する。しかし, 数年にわたり難治となるものもある。

治療

液体窒素による凍結療法, ヨクイニン内服などを行う。

3. 尖圭コンジローマ せんけい condyloma acuminatum ★

Essence

- ヒト乳頭腫ウイルス (HPV) 6 型, 11 型などによって, 外陰部に乳頭状の丘疹を形成。性感染症 (STI) の一種である。
- 潜伏期は 2 ~ 3 か月。
- 治療は液体窒素による凍結療法やイミキモド外用, 外科的切除など。

疫学・病因・症状

HPV-6, 11 などによる。大部分は性活動の盛んな年代にみられ, 主に性行為によって感染する (sexually transmitted infection; STI)。潜伏期は 2 ~ 3 か月である。外陰部や肛門に, 乳頭や鶏冠, カリフラワー様の疣状小丘疹が多発する(図 23.17)。角化傾向は少なく, 表面は浸潤してときに悪臭を放つ。巨大に増殖する場合があります。角化と潰瘍化をきたすことがある。陰茎に生じた巨大尖圭コンジローマを Buschke-Löwenstein 腫瘍といい, 現在は疣状癌 (22 章 p.448 MEMO 参照) の一種とみなされている。